

令和４年度　鳥取県立皆生養護学校中学部（重複障がい学級）教育課程

1　教育目標　　自らチャレンジしようとする生徒を育てる　～将来につながる今のＱOLの向上～

- 2　努力点・重点
- ・一人一人の将来を見通しながら障がいの実態や発達に応じた適切な課題の設定に取り組む。
 - ・生徒個々に応じて、より主体的な生き方をめざす意欲と態度の育成に努め、自分の思いを自分なりの方法で伝える力を育てる。

3　年間授業時数等

指導形態		教科等	努 力 点					Ⅰ 型	Ⅱ 型	Ⅲ 型	
										A	B
教科別領域別の指導	国語	・多様な言語活動を積み重ねることを通して日常生活や社会生活に必要な国語について理解し、表現する能力と態度を育てる。					1 4 0 ～ 1 7 5	1 0 5 ～ 1 4 0			
	数学	・数学的活動を通して数量や図形などについて基礎的・基本的な理解を深め、日常生活に活用しようとする態度を育てる。					1 4 0 ～ 1 7 5	1 0 5 ～ 1 4 0			
	音楽	・表現及び鑑賞の活動を通して、いろいろな音や音楽に興味・関心を持ち、生活や社会の中の音楽を楽しむ心情と態度を育てる。					3 5	7 0	7 0	3 5 ～ 7 0	
	保健体育	・各種の運動の特性に応じた技能及び健康・安全について理解し、基本的な技能を身につけ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。					7 0	7 0			
	美術	・進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わい、形や色などに関わるにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育てる。					3 5	3 5			
	外国語（英）	・外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質能力を育成する。					7 0				
	職業・家庭	・生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活に向けて工夫しようとする態度を育てる。					3 5				
	自立活動	・生徒個々の教育的ニーズに基づいてねらいを明確にし、指導内容と指導方法の工夫に努める。 ・生活全般を通して指導の充実に努める。					2 9 2 ～ 3 6 2	2 9 2 ～ 3 6 2	5 7 2 ～ 6 4 2	1 5 2 ～ 7 4 7	
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	・生徒の体調を観察し、健康・体力の維持向上に努める。 ・日常生活の基本的習慣を身につけ、集団生活への態度・技能を育てる。						1 7 5	1 7 5	0 ～ 1 7 5	
	生活単元学習	・友達や物への関わりを促し、主体的に活動しようとする意欲を育てる。 ・体験的な学習活動を通して、日常生活に必要な基本的事柄の知識・技能を身につけ、人とよりよく関わろうとする心情や態度を育てる。					2 1 0	2 1 0	1 0 5	3 5 ～ 1 0 5	
	スーパーモーメント	・曲の雰囲気や速さに変化をもたせたり、さまざまな音を取り入れたりすることで、音や音楽に気付き、音楽の流れている場所で身体を動かすことの楽しさや心地よさを感じることができるようにする。 ・音楽や器具を使った活動を工夫して行うことで、身体を動かすことの楽しさを表現することができるようにする。 ・集団での活動を通して他者への意識や関わりを広げられるようにする。							3 5	3 5	
	国・数・自活	・個々の生徒の実態に応じ、教材を使いながら教科や自立活動を関連させ、基礎的学力を養う。							7 0 ～ 1 4 0	3 5 ～ 7 0	
特別の教科 道徳		・体験的な活動を通して、自己を見つめ、豊かな道徳的心情を育て、道徳的判断や行動ができるようにする。									
総合的な学習の時間		・横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。					3 5 ～ 7 0				
計							1 1 3 2	1 1 3 2	1 0 9 7	6 0 7 ～ 7 8 2	
特別活動	学級活動	・指導方法の工夫と活動内容の充実による多様な活動を通して、集団の中でよりよい行動の仕方を身につけようとする自主的・実践的な態度を育てる。					3 5	3 5	3 5	3 5	
	学校行事	4月	着任式 始業式 入学式 身体測定	7月	終業式	10月	避難訓練 皆生・ブライト・フェスティバル 校外学習（１・２年）	1月	始業式	年間時数	１年：３６ ２年：３９ ３年：４２
		5月	校外学習 避難訓練	8月	始業式	11月		2月			
		6月	校外学習 皆生スポレク祭	9月	修学旅行 （３年）	12月	終業式	3月	卒業式 修了式 離任式		

4　生徒の実態、特性

- ・障がいは肢体不自由・病弱に併せ、重度・重複化、多様化傾向にあり、生活全般に介助を要する。
- ・障がいがあるため行動が制約される傾向にあり、体験の拡大に支援を要する。
- ・日常的に医療的ケアを必要とする生徒が多く、さらには体調や学習への体勢を整える上で、体調の変化等のケアや見守りの時間を長時間必要とする重度障がいの生徒がいる。
- ・全員が知的障がいを併せ有し、知的障がいの各教科や自立活動における個に応じた指導方法の工夫が必要である。
Ⅰ型：中程度の知的障がいをもつ生徒が多く、知的障がいの各教科を中心にした指導が適している。
Ⅱ型：重度の知的障がいをもつ生徒が多く、知的障がいの各教科と自立活動を組み合わせた指導が適している。
Ⅲ型A：より重度の知的障がいをもつ生徒が多く、個々の生徒の課題解決のためには自立活動を主とした指導が適している。
Ⅲ型B：より重度の知的障がいをもつ生徒が多く、個々の生徒の課題解決のためには自立活動を主とした指導が適している。併せて日常的に医療的なケアを必要とし、体勢等を整えた上での指導が適している。

5 各教科等を合わせた指導

- ・ 日常生活の指導 Ⅱ型：国語、社会、数学、理科、職業・家庭、道徳科、自立活動、特別活動
 Ⅲ型：国語、社会、数学、理科、職業・家庭、道徳科、自立活動、特別活動
- ・ 生活単元学習 Ⅰ型：国語、社会、数学、理科、職業・家庭、道徳科、自立活動、特別活動
 Ⅱ型：国語、社会、数学、理科、美術、職業・家庭、外国語、道徳科、自立活動、特別活動
 Ⅲ型：国語、社会、数学、理科、音楽、美術、職業・家庭、道徳科、自立活動、特別活動
- ・ スーパーモーメント Ⅲ型：音楽、保健体育、道徳科、自立活動
- ・ 国・数・自活 Ⅲ型：国語、数学、道徳科、自立活動

6 特色ある教育活動

- ・ 学校間交流（近隣の中学校）や地域交流を実施し、交流及び共同学習を通して経験の拡大を図り社会性を育てる。
- ・ 将来の生活を考える機会になるように進路体験学習・修学旅行・校外学習を実施し、日頃の学習に生かす。

7 備考

- ・ 授業日数

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	1年生	14	19	22	14	4	20	20	20	16	15	19	17	200
	2年生	16	19	22	14	4	20	20	20	16	15	19	17	202
	3年生	16	19	22	14	4	20	20	20	16	15	19	7	192

- ・ 1単位時間は45分とする。
- ・ 道徳教育にあっては、全教科全領域において指導する。
- ・ 個に応じた指導を重視し授業時間数に幅をもたせ、教科・領域等の時数は生徒の実態を考慮して決定する。
- ・ 給食時間に給食指導を毎日30分、自立活動として実施する。総計117時間とする。

8 「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の適用（該当のある場合は、適用欄に「○」を、詳細欄にその具体を記入すること。該当のない場合は、空欄とすること。）

小学部・中学部学習指導要領第1章第8節

取扱い	適用	詳細
1（1）		
1（2）		
1（3）		
1（4）	○	発達の状況に応じて、各教科及び道徳科の目標及び内容に関する事項の一部又は全部を小学部の各教科及び道徳科の目標及び内容に替える。
1（5）		
1（6）		
2		
3	○	知的障がいを併せ有するため、各教科の目標及び内容の全部を、知的障がいの各教科に替える。
4	○	障がいの状態に応じて、各教科、総合的な時間の学習に替えて、自立活動の指導を行う。
5		
6		